

◆◆講座報告◆◆

介護の技術の向こうに見えるもの

大切さを学びました

去る、9月9日、10日に一宮市委託の「家族介護講座」を行いました。寝たきり体験と介護技術研修は、中身の濃い講座だったと受講生の皆様から感想をいただきました。

おむつをすること／動けないこと／縛られること／縛ること／縛ること／食べさせてもらう食事／おむつをかえてもらう人の気持ち／足を洗ってもらう嬉しいさ／優しい声掛けの嬉しさ

この講座のテーマ「介護とはどういうものなのか」皆様に体験を通して感じていただけたと思っています。

■要介護4と認定を受けられたご主人を介護されている参加者の方から後日感想をいただきました。

同居の嫁に支えられ、デイサービスを利用という介護保険の恩恵を受けながら介護をしています。実際自分が「寝たきり」を体験してみても「寝たきりに近い主人の気持ち」が少しわかりました。また、介護技術の指導を受け、起こし方や足や頭を洗ったりすることがとても楽しくやれるようになりました。

介護はこれでいいというものではなく、限りのないものです。介護を受ける人も、介護をする人も共に苦しい。社会支援がいろんな形であることが望ましいのはいうまでもないことです。今回のような、家族介護講座も最も必要なことのひとつです。受講生はこういう機会を多くと希望されていました。

集中豪雨の中のケア

助け合い活動による人工透析の方の通院移送サービス支援

在宅への支援も時間をかけて予定通り

去る、9月12日の集中豪雨、当会のケア範囲である一宮市内及び稲沢市の道路は冠水による通行困難があちこちと随分ありました。在宅ケアならびに人工透析の方への移送サービスも、時間がかかりましたが無事活動を行うことが出来ました。時間の遅れを待たせて下さった利用者の方の皆様に、ご迷惑をおかけしました。そして、ワーカーの皆さん本当に疲れ様でした。



ミニデイサービス便り

☺ ふらっと立ち寄れる場所 ☺

雨の第3土曜ミニデイサービスの日、ひょっこりAさんが寄られた。

「近くまで来たので、せっかくだから来ました。どうせ家にいてもひとりだけ、雨で何をする事もないし。たしかデイサービスの日だと思って」

勿論大歓迎。木曜日には必ずおいでになる方だが、土曜日はこの日が初めて。

近くて、ふらっと立ち寄れる場所作りを目指して始めたミニデイサービス活動。

文字どおりそんな感じで利用いただければ嬉しいかぎりである。

Aさんはまごころのミニデイサービスを「明るくて楽しい」とおっしゃって下さる。

今日は、夏のアロハオエのムービーに続いて、第2弾木曾節の踊りや演奏のための簡易式のゆかた作り。

利用者さんが先生で裁断が始まった。

あーでもない、こーでもない。

自分の裁断が終わると、縫い始められる。

病気の後遺症で多少手が不自由な方も、懸命である。

正調木曾節、先に出来上るのは着物か、踊りか、演奏か、さてどうなりますか。

こんな調子で、まごころのミニデイサービスは決まり事ありません。

途中からでも、誰でも、いつでもすぐにお仲間、気軽に集える場所です。ふらっとお立ち寄り下さい。お待ちしております。

10月のミニデイサービス
研修南保育園 10/5、19 事務所 10/12、26



介護保険が始まって半年が過ぎた。これまでのサービス利用の殆どが、介護保険開始前から行政サービスを受けてこられた方々に集中していたようだったのが、このところ新規の介護保険サービス利用者が徐々に増え、介護保険制度がようやく、少しみんなのものになり始めた感がある。しかし、その一方で、サービスを受けるためには以前と同様先ず申請しなければならぬのに戸惑う。サービス利用が必要だが、家族がいよいよ高齢者には、どうしたらいいか分からず、ためらう人もまだ多い。どこかで、誰かが情報をキャッチし、支援をしなればならない。キャッチが出来れば介護保険が利用出来れば、先ずは安心が得られる。このキャッチをどうするかが問題である。

介護保険になってから、行政主導のサービスから、業者と利用者との契約に移行。行政は、介護を受ける人、する人、介護が必要の人などの情報把握が、今までよりしにくくなっているようである。タウン誌「シティ・ワン」10月号記念特集の首長インタビューの中で、一宮市の谷市長は、情報キャッチする方法に「見守りネットワーク」を発足させ、連区（町内会）の協力を得て、民生委員さん、老人会など、また保健婦の巡回、時には新聞配達、郵便配達の人にも協力してもらって対応したいと発言されている。情報がキャッチされ、保険制度運用がきちんとして住民に選択出来るようにシステム作りが必要である。